

【6月補正予算知事記者会見】6月8日

令和5年度6月補正予算案

6月補正予算案は、47億円の減額予算。補正後の予算案は5,320億円。

政策的補正は物価高騰対策54億円、通常補正分が48億円。増額部分の予算は102億円。新型コロナの5類移行に伴う補正額を反映させ、149億円の減額で予算化。全体で47億円の減額となる。

物価高騰対策は、国の臨時交付金の追加配分を踏まえ、エネルギー、食料品等の物価高騰の影響を受けた生活者や事業者を支援するもの。通常補正分は、社会資本整備にかかる国庫認証増、プロスポーツチームの支援、赤潮に強いノリ養殖のための支援を実施する。

● 物価高騰対策

物価高騰が続く現場を支援

医療・福祉・保育等は、物価が上昇しても利用者に価格転嫁できない。県民の生活に不可欠なサービスを安定して供給するため、昨年度に引き続き支援金を交付する。

子育て支援CSOが安定して活動できるよう、昨年度に引き続き支援金を交付。

高校生等のいる非課税世帯には、全日制と通信制それぞれ通常の給付額に、学用品の価格上昇分を県単独で追加交付する。

また、教育光熱費サポートとして、県立中・高、市立中・高、専修学校へ高騰分相当を10/10の補助率で支援。

ガス・電気料金の支援

国の支援は、都市ガスが対象。しかし、県内の約6割の世帯がLPガスを利用。その高騰対策に、国の交付金を活用し支援する。家庭の場合、4月～9月のいずれかの月に3,000円を値引きする。工業用も46円/㎡を事業者が値引きしたものを県が支援する。どちらも申請は不要。

特別高圧電力は、国の支援対象外。事業者には補助がないため、負担軽減を図る。支援額は、中小企業が3.5円/kWh、大企業は1.8円/kWh。大企業の上限額は3億円。

農家が前向きに経営を続けられるために

長引く飼料価格、燃料価格、電気代の高騰が、農家経営を圧迫している。

まず、畜産農家への配合飼料サポートとして、国の制度で補填されない1/4を県が支援する。また、酪農家には、国の支援額に県独自で19,000円/頭を上乗せ支援。そ

れぞれ、食べこぼしの低減取組を要件に、前回に引き続き第2弾の激変緩和策。

園芸農家には、省エネ能力の高いハウス加温機への再整備を支援。また、選果場における省エネ能力の高い冷蔵設備への再整備を支援する。それぞれ、補助率1/2。

インバウンド誘客の加速による好循環へ

4月2日に、台湾便の運行が再開され、搭乗率が9割を超え好調だった。しかし、アジア大陸側の離発着枠の調整、様々な要件、空港の保安要員不足への対応が、課題になっている。いずれ戻ってくる中国・韓国便を視野に入れ、誘客促進のための商品造成・販促経費の補助、航空事業者の情報発信への経費の補助を行う。

また、九州佐賀国際空港への国際線の早期再開、安定運航に向けた支援として、航空事業者へのハンドリング経費等の補助、保安検査事業者等への人件費補助を行い、受け入れ態勢を早期に整備したい。

● 通常補正

通常補正48億円のうち、国庫認証増44.9億円。国交省を中心に様々な国庫認証が行われた。内訳は、道路整備、公園・街路、河川の整備、六角川河川激特事業、港湾の整備。ほとんどが国庫で、関係する起債や一般財源等合わせた事業費ベースの数字。

プロスポーツチームと創り出すさらなる上昇気流

佐賀県ではSSP構想を進めている。サッカー、バスケットボール、バレーボールの1部のプロチームを持っている県は、九州では佐賀のみ。全国では6県目。

観戦機会の創出、情報発信、SAGA2024、SSP構想の普及啓発を含め、県内各プロチームへ支援する。佐賀競馬から競馬組合の配分金をいただいたので、全額充てたい。

佐賀ノリの生産回復に向け全力を尽くします

令和4年度は、深刻な色落ち被害で20年連続日本一が達成できなかった。国の交付金を活用し、二枚貝サルボウの種苗放流や海底耕うんを試みた。さらに2億円を活用し、補助率10/10で、二枚貝（カキ、アサリ）による環境改善、カキ礁の造成、新たな海底耕うんの実証、養殖漁場の水質・潮流調査に取り組む。

シリコンウエハーの世界的なメーカー（株）SUMCOから、吉野ヶ里町内で整備中の、県営産業団地の土地購入の申し出を受けた。大変喜ばしく、歓迎したい。

6月の定例議会に県有財産、土地の処分議案を提出する。面積は約22ha、金額は約60億円。

シリコンウエハーは、半導体製造に必要不可欠な材料。半導体は、あらゆるものに組み込まれ、人々の暮らしを豊かにしている。

(株) SUMCO は世界シェア第2位で、スマホなどに使用されている最先端ロジック分野では第1位。もともとは江北町の事業所から始まり、伊万里市久原、長浜に事業所がある。今後、さらに連携して取り組んでいく。